

さくらだより [41号]



2014年8月25日発行

女性も最近では飲酒する機会も増えており、仕事帰りに女子会とか食事の時には必ず飲酒する等、男性ほどではないにしてもアルコール摂取量が増えてきているのではないのでしょうか。アルコールが体内で分解されてできる「アセトアルデヒド」には発がん性があり、このアセトアルデヒドを害のない酢酸に分解するのが2型アセトアルデヒド脱水素酵素(ALDH2)といわれている物質です。この物質は酵素であり遺伝子があります。正常型と欠損型です。両親から欠損型を遺伝すると「完全欠損型」となりお酒が全く飲めません。従って発がんリスクが上がる心配もありません。両親からの遺伝子がともに正常型だとアセトアルデヒドが体内に蓄積しにくく、がんの発生は少ないとされています。両親からの遺伝子のどちらか一方が欠損型だと「部分欠損型」でお酒を飲むと顔が赤くなりますがお酒は飲めます。日本人の5%は「完全欠損型」です。「正常型」は白人や黒人に多く欧米の人はお酒が飲めない人は少ないのです。従ってアルコール中毒は多いといわれています。日本人の45%は「部分欠損型」です。部分欠損型の人がお酒をたくさん飲むとがんの危険が高まります。飲まない人に比べて食道がんのリスクは10倍になるとも報告されています。しかも、大量にお酒を飲み、更にタバコを吸うとリスクは30倍にもなるといわれています。女性は男性に比べてアルコール摂取量が少ないので「食道がん」は少ないのですが、御主人やお父さんの飲酒習慣に気を配ってあげることも大切です。

